

( 8 - ) 一般機械工業 ( 金属工作機械 )

19 / 18 20 / 19

伸び率10%以上 ● 伸び率0 ~ 10%

: 天気図マーク; ●

伸び率0 ~ 10%

伸び率 10%以下

1 . 企業経営動向 ( 需要、生産・設備稼働、企業収益、財務 )

(1) 需要

平成19年の受注額 ( 出典 : ( 社 ) 日本工作機械工業会統計 ) は1兆5,900億円、対前年比10.6%増と2年連続史上最高となる受注額となった。内需については、航空機・造船・輸送用機械向が対前年比10.1%増で二桁の伸びを示し、自動車向けが2年ぶりにプラスに転じた一方、商社・代理店向け、精密機械向けや電気機械向けなど8業種がマイナスとなったことから、7,264億円、対前年比0.9%減と微減となった。外需については、欧州、アジア向けが大幅に増加した他、北米向けも前年を幾分上回り、8,636億円、対前年比22.7%増と初の8,000億円台を記録し4年連続最高額の更新となった。

(2) 生産・在庫

平成19~~8~~年の生産額 ( 出典 : 経済産業省生産動態統計 ) については、受注の増加基調を受け、1兆3,040億円と対前年比7.7%増と5年連続の増加となった。

在庫 ( 年末在庫 ) ( 出典 : 経済産業省生産動態統計 ) は、生産台数の増加に伴い、対前年比38.8%増となった。

(3) 企業収益

平成18年度は、受注が大幅に増加したため、多くの企業で増収となり、黒字決算となった。

( 社 ) 日本工作機械工業会調査の「工作機械工業経営状況調査 - 2007年度上期 - 」によると、調査対象23社の連結売上高は前年同期比9.3%増となり、営業利益は24.0%増、経常利益は16.5%増、当期利益は18.1%増となった。

2 . 設備投資動向 ( 19年度見込み、20年度計画 ) ( グラフ 1 参照 )

(1) 平成19年度実績見込み

平成19年度実績見込みは、18-19共通回答企業12社合計で233億円となった。これは250億円であった平成18年度実績に比べ6.8%減である。

目的別では、生産能力増強投資 ( 28.0% ) 及び合理化・省力化投資 ( 25.1% ) のウェイトが高くなっている。

(2) 平成20年度計画

平成20年度計画は、19-20共通回答企業11社合計で268億円と計画されている。これは219億円であった平成19年度実績見込みに比べ22.1%増である。

目的別では、生産能力増強投資、合理化・省力化投資、研究開発投資が依然として大きなウェイトを占めている他、更新・維持投資のウェイトが高まっている。

### 3. 長期資金調達・運用動向（長期資金運用動向、長期資金調達動向）

#### (1) 長期資金運用動向

平成19年度は平成18年度に比べ、投融資が増加したが、設備投資資金及び短期資金への振替は減少している。

平成20年度計画は平成19年度に比べ、設備投資資金が増加する（対前年度比37.4%）。

#### (2) 長期資金調達動向

平成19年度は借入金が増加する一方で内部資金は減少する見込みとなっている。

平成20年度計画は平成19年度に比べ、借入金、内部資金ともに増加する見込みとなっている。

（グラフ1：設備投資の前年度比の推移）

